

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 7 回社会教育委員会議	
開催日時	令和元年 7 月 10 日 (水) 午後 2 時 30 分～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、田中 宏和、山田 久美子、渡邊 彩 計 9 名 * 敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、中央公民館長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐 生涯学習センター職員 3 名 計 9 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 教育次長あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 令和元年度社会教育委員等研修会 参加報告 ○報告資料 1-1、1-2 に基づき、角野委員、笹川委員がそれぞれ参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・ 質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 令和元年度指定都市社会教育委員連絡協議会 参加報告 ○報告資料 2 に基づき、雲尾議長が参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・ 質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3) 新潟市教育ビジョン第 4 期実施計画のパブリックコメントについて ○報告資料 3 に基づき、事務局が新潟市教育ビジョン第 4 期実施計画(案)とパブリックコメントについて説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・ 基本施策の 5、校種間・学校間連携に関し、「一般教育の推進」とあるが、特に幼・小連携について、それぞれの幼稚園・保育所間でも連携ができていない中で、小学校との連携というのを新潟市ではどこがメインになって進めているか。 ⇒幼保小連携では教育委員会が音頭を取り、市内の幼稚園、保育園と認定こども園と一緒に小学校と連携していくことを進めている。小・中は義務教育のため教育委員会で行っている。</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会 連携協力について ○協議資料 1 に基づき、事務局が新潟市の協力について説明し、分科会の事例発表のテーマ 5 つの中からの選定について、3 番の「地域との関わり」とすることで了承されました。 【主な質問・意見等】 ・ 現在、次世代育成の建議の作成を進めており、建議自体は 3 月には完成するため、その中からという形でもいいのではないか。</p>

<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、「世代を超えた学び」と、「いろいろな世代の学び」がキーワードとして出てきていることからすると、分科会の5番の「多様な人との関わり」のほうが取り組みやすいと感じる。逆に、2番の「家庭との関わり」は取り組みにくく、新たに組み込まなければいけないと感じた。 ⇒5番の「多様な人との関わり」というのは、「多世代」というよりは、外国人、障がい者、LGBTなどのイメージと受け取る。 ・全国的な動向としては、今まで社会的包摂という観点で入り、ほかに例として貧困の問題という形で、これまでの社会教育に関わりにくかった人たちというニュアンスもある。 ・「多様な人」が異文化、LGBT、障がい者等をイメージされることが多いのであれば、この建議について分科会を持つのは、3番「地域との関わり」のほうが建議を反映させやすいと感じた。 ・5番の「多様な人との関わり」は、外国人とか、社会支援が必要な障がいの方とか、今まで社会教育にはあまり関わりがなかったようなところのほうが強いというイメージを持った。今までの取り組みを見ると、3番「地域との関わり」は事例発表もたくさんあり、いいのではないかと。地域の中で、いろいろな世代との関わり、あるいはいろいろな考えの方との関わりがあるため、3番のほうが、今までの取り組みから取り上げやすいと感じる。5番も魅力的で、今後取り上げていくといい。 ・オリンピックイヤーのため、外国の方が多く日本を訪れるのは容易に予想ができ、新潟にやって来る外国の方も多いため、「多様な」を外国の方々と見ると、タイムリーと感じる。それと同時に、今までの事例を反映するのであれば3番。この頃には、学校も学・社・民で1番も事例は多く、2番「家庭との関わり」も事例は多い。冒険心で5番を選ぶかどうかという視点でいくといいのではないかと。 ・全国社会教育研究大会が開催され、そこで話し合われたことは、どのように成果として活用されるのか。 ⇒報告書として編集し、販売する。参加者は行政もいるが、社会教育委員や地域の公民館の館長という方が多く、事例を聞いて意見交換をして持ち帰り、自分のところで活かしていくという形になる。 ・3番のほうが新潟市の持ち味を十分に他県の方々に知ってもらえる機会になると思うが、5番も捨てがたい。 ・3番を取ると次の期の社会教育委員にとってやりやすいと思う。 ⇒分科会のテーマは、3番「地域との関わり」を希望する。 <p>5 事例研究</p> <p>(1) 高校生が主体の地域での学びについて</p> <p>○資料に基づき、角野委員が高校生主体の地域での学びについて紹介しました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元ではない生徒もいる高校で、その地元を学習するというのは、高校生の気持ちはどのようなものか。 ⇒地域を知ることが目的ではなく、地域をベースに自分の探究を進めていくことが目的で、その結果、地域を知り、地域の人たちと出会うということで、それが最終的な目的ではないということは押さえておきたいと思う。 ・探究ができるだけの力が高校に来るまでに育っているのか、東区で今年度1年生が取り組んで実際に動けるものか。
------------	---

<p>内 容</p>	<p>⇒東区も7月に始まったばかりで本格的な地域への取材はこれからであるが、子どもたちは小・中でグループワークやファシリテーションを積んできているため、高校生たちはできると思う。中学でのベースがある分、新潟の子たちの強みである。先生方はグループワークをあまりしたことがない方もいて、不安があるようだ。</p> <p>(2) 新潟市の中学生による地域貢献活動について</p> <p>○資料に基づき、生涯学習センター所長が新潟市の中学生による地域貢献活動について説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笹川邸を味方中学校の生徒が案内するところに出会い非常に感心した。自分たちで作った紙にポイントを絵で描いたり、言葉で書いたり、時間がなければできないことをして、聞いていた大人たちが感心していた。このような取り組みを通して地元愛、郷土愛というものが出てくると思うので、このまま続けてほしい。 <p>(3) 新潟市の図書館における取り組みについて</p> <p>○資料に基づき、中央図書館の館長補佐が新潟市の図書館における取り組みのうち「大人の部活」について事例紹介をしました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアなユーザー中心で動いているのか、あるいは、そのときによってメンバーが変わっていたり、増えたりしているのか。 ⇒コアなメンバーは10人から20人くらいの間で、そのコアなメンバーができるとき、できないときで、都合が合う人が協力をする。そのほかに一度でもやったことがある、参加したことがある人、まったく参加したことがないがSNSを見て興味があるから来てみたいという人が入り、どんどん雪だるま式に膨れている。 ・広報や拡散はSNSが中心か。 ⇒メインのものは、西区の区報と図書館のホームページを使用している。それ以外は、基本的にはSNSの内部にある大人の部活の公開グループで広報している。 ・店に本を預けて、そこへ買い物に来た人に利用してもらおうサービスについて聞きたい。 ⇒団体貸出制度を使った協働のパターンで、グループ、団体に対して図書館は1か月100冊まで本を貸し出しできる。愛称は「ブックパック」で、西区の図書館で始め、今、全市展開をしている。現在100団体以上が使用していて、読書団体や保育園等だけでなく、カフェや喫茶店や学習塾にも本を提供している。学校の学びの拠点づくりのために地域教育コーディネーターの方にも利用されている。 ・今まで図書館というと、来るのを待つというイメージがあったが、そうでなく、こちらから出て行くという発想はいいと思う。 <p>6 意見交換</p> <p>○「世代を超えた学びの継承と創造による次世代育成」グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草案の作成方法の②の形態をとることにし、グループ内で、一人ひとつの事例を挙げて、それぞれ執筆し、9月の上旬をめどに提出をして、9月の遅くても13日頃までには皆で集まり、出来上がったものを読み合わせし、9月25日までにまとめて報告をする。笹川委員は南区の白根高校のコミュニティの事例を、伊比委員は「Akiba きらきらプロジェクト」、岡委員は「そらいろ子ども食堂」
------------	--

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

	<p>について、杉山委員は中之口の若手の「やっこて」の検証をする。</p> <p>○「いろいろな世代の学びの充実と展開による次世代育成」グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員 4 人で、各自 1 事例を選んだ。それを平成 30 年 3 月の添付されている資料を参考に草案を作成し、草案の中に提言を 5 行程にまとめて 9 月 6 日までに送り、事務局が 9 月 6 日以降、各自にもう一回送信し、各自で自分のレポートを若干修正したり、提言を変えたりした結果、10 月 7 日に顔を合わせて具体的な提言をまとめていく。 <p>7 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小委員会を 11 月 11 日（月）午後 2 時から開催する。 ・11 月 7 日から 8 日に川越市で開催される第 50 回関東甲信越静社会教育研究大会 埼玉大会について、杉山委員から参加いただく。 ・来年度の全国大会新潟大会について、県教委から、事例としては新潟市が「学校との関わり」あるいは「多様な人との関わり」になるという状況の報告があった。先ほどの決定とは異なるが、来期の社会教育委員の方々には了承いただきたい。 <p>8 閉会</p>
傍聴者	1 名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・第 33 期新潟市社会教育委員会議（第 7 回）次第 ・報告資料 1-1~3 令和元年度社会教育委員等研修会 参加報告 ・報告資料 2 令和元年度指定都市社会教育委員連絡協議会 参加報告 ・報告資料 3 新潟市教育ビジョン第 4 期実施計画(案)について ・協議資料 1 第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会 連携協力について ・その他資料 1 令和元年度新潟市社会教育委員会議日程及び各種研究大会・研修日程